

# 近江米 情 報

第52巻  
第2号  
(通巻258号)  
令和3年  
**06**  
(2021年)

発行 / 近江米振興協会

編集責任者 / 小久保 泰

安全・安心、  
美味しいお米は  
近江米。



- 卷頭 : CO<sub>2</sub> ネットゼロ
- 特集 : 防ごう病害虫被害  
防ごう農作業事故

大津市松本一丁目 2-20 滋賀県農業教育情報センター内  
TEL(077)523-3920 TEL(077)523-3920  
ホームページ <http://www.ohmimai.jp/>  
E-mail : shiga@ohmimai.jp

ヘアリーベッチを活用した「みずかがみ」栽培

# CO<sub>2</sub> ネットゼロに向けた 環境こだわり農業の推進

食のブランド推進課

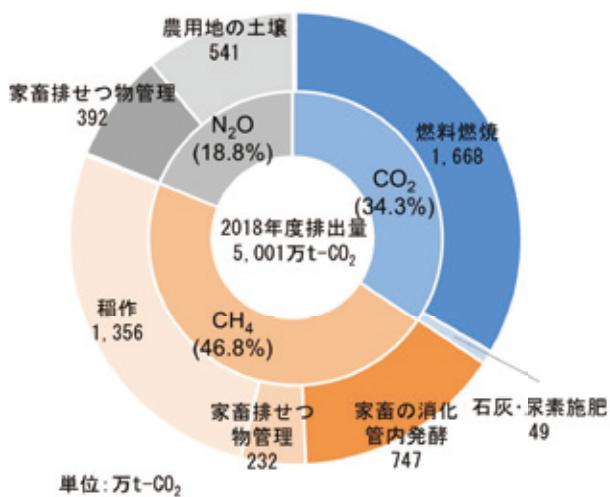
## 地球温暖化の影響

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加など、地球温暖化によると考えられる影響が全国各地で現れており、住民の生活、社会、経済および自然生態系などに多大な被害を与えています。農業においても、猛暑による農作物の品質低下や、豪雨による農業被害の発生などの影響が既に現れてきています。

今後、地球温暖化の進行を防ぐためには、温室効果ガス（以下、GHG（GreenHouse Gas））の大幅削減を進めるとともに、起これりうる気候変動の影響に適切に対処していくことが重要です。

GHG には二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O) があり、世界の GHG 排出量は、490 億トン (CO<sub>2</sub>換算) です。このうち、農林業などの排出は全体の 1 / 4 を占めています。農業分野からは、水田や家畜などからのメタンの排出や、農用地の土壤からの N<sub>2</sub>O の排出が主なものです。日本の排出量は 12.4 億トン (2018 年度) と世界で 5 番目に多く、このうち、農林水産業分野は約 5,001 万トン (2018 年度) で、日本の全排出量の 4.0% を占めています。

## ■ 日本の農林水産分野のGHG排出量



データ出典：温室効果ガスインベントリオフィス (GIO)

出 所：「農業分野における地球温暖化対策について（農林水産省）」

## しがCO<sub>2</sub>ネットゼロ

2018 年 10 月に発表された IPCC（気候変動に関する政府間パネル）1.5°C 特別報告書では、将来の平均気温の上昇を 1.5°C 未満に抑えるためには、人為的な二酸化炭素排出量を 2050 年前後に実質ゼロにする必要があると指摘されています。

このため、本県においても、琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境を守り、豪雨災害などに強い持続可能な社会を次世代に引き継ぐため、二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指して、県民、事業者、行政が一丸となって取り組む「しが CO<sub>2</sub> ネットゼロ」ムーブメント」キックオフ宣言を 2020 年 1 月に行いました。



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## 農業生産ができる取組

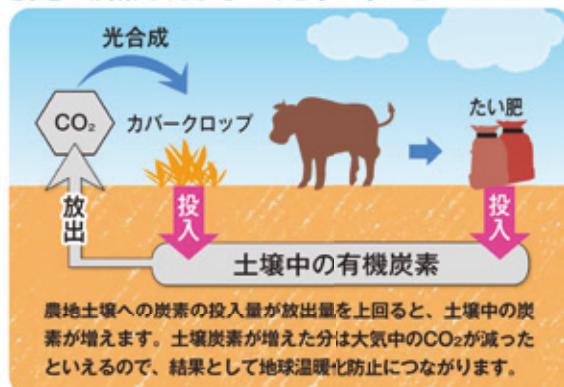
地球温暖化対策は、大きく分けて気候変動による自然環境や人間社会への影響に対して、あらかじめ備える対策である「適応策」と、GHG の排出を抑制する対策である「緩和策」があります。「適応策」としては、たとえば、水稻では、登熟期の高温に強く、一等米比率が低下しにくい「みずかがみ」を作付けすることなどがあります。

「緩和策」は、「排出削減対策」と「吸収源対策」に分かれます。GHG の排出量をなるべく減らし（排出削減対策）、減らしきれない分は森林や農地土壤に吸収させる（吸収源対策）ことにより、二酸化炭素排出量を差し引きゼロにします。

「排出削減対策」としては、たとえば、水稻では、長期中干し（14 日以上の中干し）に取り組むことで水田からのメタンの発生を約 3 割抑制することができます。

「吸収源対策」としては、たい肥や緑肥（カバーコロップ）などの有機物を農地に施用することで、土壤中に炭素を貯留することができます。

### 農地に炭素がたまるってどういうこと？



出典：環境保全型農業の成果（農林水産省）

滋賀県では排出削減対策である長期中干しには約 11,000ha（2020 年、削減効果は約 24,000 トン（CO<sub>2</sub>換算）。）で取り組まれています。一方、吸収源対策であるたい肥や緑肥（カバーコロップ）の施用に取り組む面積は約 880ha（2020 年、削減効果は約 2,100 トン（CO<sub>2</sub>換算）。）に留まっており、一層の取組強化が必要です。

## 農業生産ができる取組

環境保全型農業直接支払交付金は、環境こだわり農産物の生産にあわせて、GHG の排出を抑え、地球温暖化防止などに効果の高い営農活動に取り組む面積に応じて交付金が支払われます。「たい肥の施用」、「カバーコロップ」も支援の対象となっています。

### ○「たい肥の施用」

対象作物：全作物

支援単価：4,400 円 / 10 a

### ○「カバーコロップ」

対象作物：全作物

支援単価：6,000 円 / 10 a

※詳しくは、パンフレット「環境保全型農業直接支払交付金の概要」をご覧下さい。

(<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangoyou/nougyou/ryutsuu/311579.html>) に掲載

将来にわたって琵琶湖とそれを取り巻く田園を良好に保全し、持続可能な農業を営むためには、地球温暖化対策に早急に取り組んでいかなければなりません。今後も CO<sub>2</sub>ネットゼロに向け、環境こだわり農業を通じた GHG 削減対策に積極的に取り組んでいただくよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

# 水田土壤の可給態窒素の迅速な把握

～簡易評価法の県内土壤への適用～

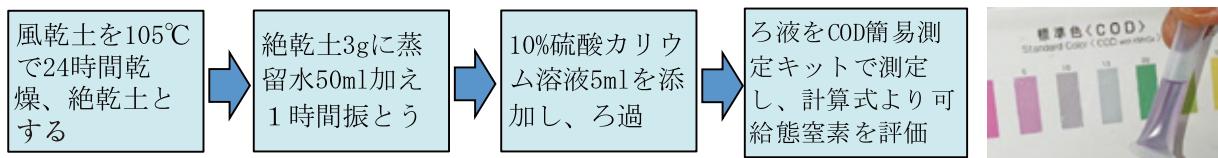
農業技術振興センター  
環境研究部環境保全係

## 1 はじめに

水田土壤の改良目標の項目にあげられる可給態窒素量は、地力の高低を評価する指標ですが、公定法（風乾土を30°C 4週間培養し生成した無機態窒素量を測定）は時間と労力を多く必要とし、多数の診断は困難です。そこで、可給態窒素量を迅速に把握することができるよう、農研機構（国の研究機関）で開発された簡易評価法（「水田土壤可給態窒素の簡易・迅速評価マニュアル（農研機構）」によりホームページ等で公表）について、県内の土壤への適用性を検討しました。

## 2 試験内容と結果

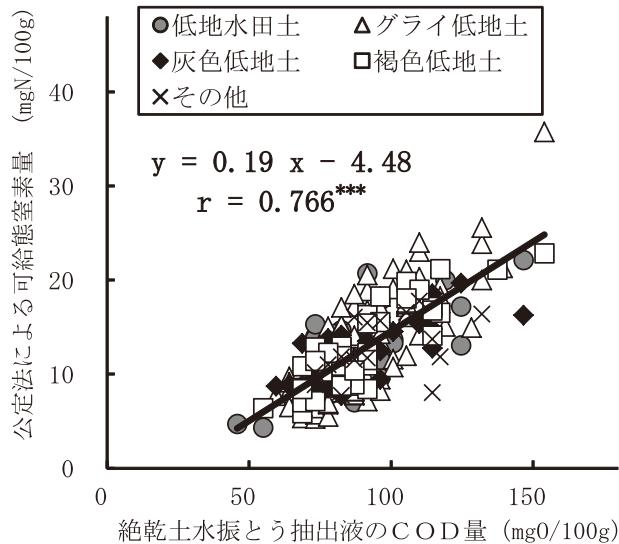
簡易評価法は、風乾土を105°Cで24時間乾燥させた絶乾土を水で振とう抽出し、化学的酸素消費（COD）量から可給態窒素量を迅速に把握する方法で、絶乾土にすれば1日で測定できます。また、COD量は市販の簡易測定キットを用いれば容易に測定できます。手順を下記に示しますが、詳細は上記の農研機構マニュアルを参照下さい。



簡易評価法の手順（農研機構マニュアルから引用）

本県の水田土壤262点について、上記の手順で得られた絶乾土水振とう抽出液のCOD量と、可給態窒素量（公定法）を測定したところ、両者は有意に相関関係があることから、簡易評価法は本県土壤の可給態窒素量の測定に活用できると考えられました。本県の主要な土壤タイプ（グライ低地土、灰色低地土等）に対していずれも適用でき、測定したCOD量からは下記の計算式により、可給態窒素量を推定できます。

（右図：本県水田土壤の可給態窒素量と絶乾土水振とう抽出液COD量の関係。図中の\*\*\*は0.1%水準で有意を示す）



### 本県水田土壤における可給態窒素量の推定式

$$\text{可給態窒素量 (mgN/100g)} = \underline{0.19} \times \underline{\text{COD測定値 (mg/L)}} \times \underline{55 (\text{ml} \cdot \text{抽出液量})} / \underline{3 (\text{g} \cdot \text{土重})} / \underline{10 (\text{単位換算})} - \underline{4.48}$$

## 3. さいごに

簡易評価法で得られた可給態窒素量の推定値は、水稻収穫後等の土づくりに活用します。値が乾土100g当たり14mgN未満の場合は、土づくりが必要と考えられます。特に、8mgN未満では地力がかなり低いため、堆肥等有機物を積極的に補給するようにしましょう。

# 緑肥のすき込み時期はいつが良いのか？

～緑肥からの窒素供給量と  
すき込みから入水までの好適な期間～

農業技術振興センター  
環境研究部環境保全係

## 1. はじめに

県内の水稻栽培において、化学肥料の使用量削減やオーガニック栽培に取り組むため、ヘアリーベッヂやレンゲといったマメ科の緑肥作物の活用が県内各地ですすんでいます。しかし、これまで、水田にすき込んだ緑肥に含まれる窒素が無機化<sup>注1)</sup>して、水稻の肥料成分として供給されるアンモニア態窒素量について必ずしも明らかになっていません。今回、室内培養試験<sup>注2)</sup>により緑肥の無機化に関して得た結果の一部（すき込みから入水までの好適な期間）についてご紹介します。

注 1) 窒素の無機化とは、稻わらや緑肥などの有機物が分解され、有機物中に含まれる窒素が土壤微生物の働きによりアンモニア態や硝酸態の無機態窒素として放出されることをいいます。

注 2) 室内培養試験は、ヘアリーベッヂまたはレンゲの茎葉 2t/10a 相当量（含まれる窒素量はヘアリーベッヂ 13 kg N、レンゲ 6 kg N）を土壤と混和した後、実験室内的恒温器で培養し、生じるアンモニア態窒素量を測定して行いました。培養は、①「緑肥すき込みから入水までの水田状態」を想定した畑地培養と②「入水以降の水田状態」（水稻栽培期間）を想定した湛水培養を組み合わせて行いました。

## 2. 緑肥混和土壤の室内培養試験の結果から

緑肥すき込みから水稻栽培の全期間（注2①+②）を想定した培養試験から、すき込んだヘアリーベッヂまたはレンゲに含まれる窒素量のうち無機化して生じるアンモニア態窒素の割合を図に示しました。畑地培養期間（注2①）が 7～21 日の場合、生じたアンモニア態窒素の割合はおよそ 60% でした（図）。一方、畑地培養期間（注2①）が 28 日の場合、生じたアンモニア態窒素から水稻の肥料成分とならない硝酸態窒素への変化が進むためロスが生じ、アンモニア態窒素の割合は 20% を下回りました（図）。

この結果、窒素の無機化量から見た場合、すき込みから入水までの期間は、ヘアリーベッヂ、レンゲいずれも 7～21 日が好適と考えられます。

## 3. さいごに

今回は、室内培養試験での緑肥の窒素無機化特性からみたすき込みから入水までの好適な期間を紹介しました。実際の栽培では還元障害などの水稻への影響を考慮する必要があります。今後、ほ場での検証を引き続き行い、緑肥を活用した水稻栽培マニュアルに反映させ、緑肥の活用推進につなげていきます。

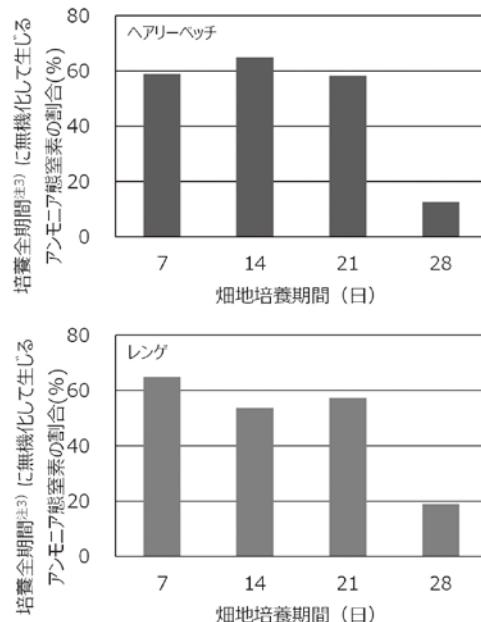


図. 緑肥すき込みから水稻栽培の全期間を想定した培養期間

におけるアンモニア態窒素生成量

注3) 培養全期間とは、緑肥すき込みから水稻栽培の全期間を想定した培養期間。

# 東近江地域でのヘアリーベッチを活用した「みずかがみ」栽培について

東近江農業農村振興事務所  
農産普及課

## ○緑肥ヘアリーベッチ活用のメリット

ヘアリーベッチは、マメ科作物の一つで、10月に播種し、翌年5月ごろに開花します。その特徴は以下の2つです。

### ・地力増進効果

ヘアリーベッチは窒素量で約15kg/10a蓄えることができ、すき込むことで土壤肥沃度が増大します。すき込み後の分解も早く、腐植として土壤の保肥力も増加します。



### ・環境にやさしい

ヘアリーベッチは肥効が長く、水稻栽培では無肥料で栽培が可能なため化学肥料削減だけでなく、省力化につながります。また、炭素貯留効果もあり、地球温暖化防止効果が期待できます。

## ○管内への導入

### (1) なぜ、今ヘアリーベッチか?

東近江地域の「みずかがみ」では、近年地力の低いほ場等において夏の高温による生育後半の肥料切れに伴う収量低下が問題となっています。対策として追肥も挙げられますが、大豆播種との作業競合やコストの増加が問題となります。

令和元年度にヘアリーベッチを活用した「みずかがみ」栽培を検証したところ、無肥料で増収が確認できました。令和2年度からは「みずかがみ」の収量の安定確保に向け、ヘアリーベッチを活用した「みずかがみ」栽培技術の確立を目指し、実証までの効果の確認を中心に取り組んでいます。

### (2) 実証ほを設置

ヘアリーベッチ活用の効果を実証するため、東近江地域農業センターの事業として、管内4か所に実証ほを設置し、4JAの担当者とともに調査を行い、情報共有を図りました。

その結果、実証ほの「みずかがみ」の収量は、560kg～612kg/10aとなり、前年以上の収量を得ることができました。肥料代については、

全量基肥施肥体系の10,000円/10aに対して、ヘアリーベッチを活用した場合の種子代を含めても4,000円/10a削減できました。

## ★ヘアリーベッチ跡水稻栽培のポイント

### ①ヘアリーベッチの播種

- ・10月中旬～下旬に3～4kg/10a播種します。
- ・湿害に弱いため、必ず排水対策します。
- ・条播機（シーダー）などを活用し、均一な播種と軽い覆土を行います。

### ②ヘアリーベッチのすき込み

3月下旬～4月上旬に生育量を測定し、目安量に達した時点ですき込みます。（「みずかがみ」の場合、窒素量で約10kg/10aです）

### ③移植前後の水管理

入水して一週間後に田植えします。移植後に還元障害が発生した場合は軽く干します。

## ○取組拡大に向けて

広報誌「鋤と鍬」による技術紹介、すき込み方法などの現地研修会の開催や緑肥に興味のある農業者へ働きかけを行ったことにより、令和2年度の生産者4名、面積2.0haから、今年度は生産者11名、面積5.5haに拡大しています。

また、湖辺から中山間までの、土質や気候の違う管内全域の9か所に実証ほを増やし、地域への波及を図るため取組拡大を進めています。



ヘアリーベッチすき込み研修会  
(R3.3.10 東近江市合戸町地先)

# 温暖化対策としての 土づくりの推進について

J A 全農しが

## ○はじめに

近年、温暖化の進行により本県の主要農産物である近江米の収量・品質に大きな影響を及ぼしています。その対策として、本県では高温耐性品種(みずかがみ)の開発や、栽培管理(遅植、水管理)の見直し、肥培管理(緩効性肥料)の見直し等に取り組んできました。

一方、農産物の生産基盤となる地力については、温暖化や田畠輪換の影響により低下が危惧されており、将来にわたり近江米の収量・品質の安定化を図るために、これまで取り組んできた「品種対策」「栽培対策」「肥料対策」に加えて、「土づくり対策」を継続的に行なうことが極めて重要となります。

J A グループ滋賀では、令和2年産米より「土づくりの推進」を展開しており、下記に一例を記します。

### 1. 出向く推進活動

今まで土づくり肥料を散布されていない生産者等を重点に訪問することによって、土づくりの必要性について訴えております。



### 2. 土づくりの啓発

「土づくり啓発チラシ」や「啓発ポスター」「啓発のぼり」「啓発車用マグネット」を作成し、J Aの営農センターや支店等にて啓発活動を行うことにより、生産者に対して土づくりの意識付けを図っております。



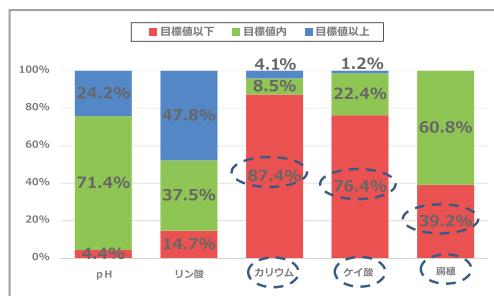
啓発チラシ・ポスター

### 3. 土壤診断を活用した診断結果に基づく施肥提案

県内の土壤分析結果は、カリウム、ケイ酸が不足している水田が多く、不足養分の説明とともに「けい酸加理プレミア34」等の土づくり肥料の施肥を提案しております。分析を行った生産者からは、「栽培している圃場の状態を知ることができ、大変参考になった」との声が聞かれました。過去5年間の県内土壤分析結果は右記のとおりです。また、令和3～4年産米では、地力の見える化として新たに「水田土壤可給態窒素」の簡易分析を行っております。

分析点数=5,909点

過去5年間の県内土壤分析結果(H28.4～R3.3末)



## ○最後に

土づくりについて、より生産者に理解し取り組んでもらうためには何ができるか、土づくり肥料を散布してもらうために何かできないか等の視点を大切に、J A・県関係機関と協議を重ね協力しながら今日まで「土づくりの推進」に取り組んできました。

その中で見えてきた成果や課題を整理しながら、令和4年産米に向けても近江米の収量・品質の安定化のために、引き続き「土づくりの推進」に取り組みます。

# 【特集①防ごう病害虫被害】

## 水稻病害虫発生と予防

～本田での防除の注意事項～

病害虫防除所

今年の水稻病害虫防除にあたって、主要な病害虫の発生要因とその対策を、いま一度確認しましょう。防除する際には、農薬（殺虫剤、殺菌剤、除草剤）の散布後1週間は、かけ流しや落水をせず、しっかり止水するとともに、降雨が予想される場合は、農薬散布を控えましょう。

### 【病害】

#### 1. いもち病

##### (1) 葉いもち（昨年の発生量：平年並）

- ①置き苗で発生したいもち病が感染源となり、周辺の稻に発病が広がるため、補植後は速やかに置き苗を必ず処分しましょう。
- ②昨年は発生ほ場率が高かったことから、ほ場をよく見回り、葉いもちの発生を確認したら薬剤を散布しましょう。特に上位葉の病斑は穂いもちの伝染源となるため、注意しましょう。
- ③多肥田や晚植田は発生しやすくなります。また、「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」、「秋の詩」、「滋賀羽二重糯」などの品種は発生しやすいため、常に注意しましょう。
- ④葉いもちの発生時期に関する情報【「県病害虫防除所ホームページ」内の「水稻いもち病発生予測システム BLASTAM（ブラスタム）」】に留意しましょう。



葉いもちの病斑



穂いもちの病斑

##### (2) 穂いもち（昨年の発生量：平年並）

- ①出穂前または穂ばらみ期～出穂期に薬剤を散布するが、葉いもちの発生が多い場合や、出穂～開花期頃に降雨が続くなど、多発が予想される場合は、さらに穂揃期～乳熟期に薬剤を散布しましょう。
- ②薬剤耐性菌の出現を防止するため、葉いもち防除を含む同一グループ薬剤の連用を避けましょう。

#### 2. 紹枯病（昨年の発生量：平年並）

- (1) 気温が高く、雨が多い気象条件や、過繁茂な生育状況は発生を助長します。
- (2) 病原菌は、ほ場で越冬するため、前年発生の多かったほ場では特に注意し、特に株元をよく観察しましょう。
- (3) 防除の目安は以下の通りです。
  - ・極早生・早生品種：発生を認めた場合
  - ・中生・晩生品種：出穂20日前の発病株率が15～20%以上の場合。
- (4) 粉剤または液剤で防除する場合は、株元までよくかかるように散布しましょう。



紹枯病

## 【虫害】

### 3. ニカメイガ (昨年の発生量：第1世代 やや少、第2世代 少)

- (1) 第1世代幼虫による被害が多かったほ場では、第1世代発生最盛期から7日後（平坦部：8月第1半旬頃）までに薬剤を散布しましょう。粒剤で防除する場合は発生最盛期（平坦部：7月第6半旬頃）に散布しましょう。
- (2) 中生・晩生品種や晩植田は被害を受けやすいので発生状況に注意しましょう。



ニカメイガによる被害

### 4. トビイロウンカ (昨年の発生量：多)

- (1) 昨年度は多発しています。トビイロウンカは海外からジェット気流に乗って飛来し、多発すると吸汁害による坪枯れを引き起こします。
- (2) 中生・晩生品種や晩植田は被害を受けやすい傾向にあります。本県では7月上旬までに飛来が認められると多発する危険性が高いため、県病害虫防除所からの情報に注意するとともに、発生状況に応じて薬剤散布や早期刈り取りを検討しましょう。



トビイロウンカによる坪枯れ

### 5. 斑点米カメムシ類 (昨年の発生量：やや多)

本県では、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカムムシ、クモヘリカメムシおよびアカスジカスミカメが主要種ですが、昨年はイネカムムシが県全域で発生しました。主に畦畔や雑草地などのイネ科雑草で増殖し、水稻出穂後、ほ場に侵入し水稻の穂を吸汁加害して斑点米を作ることから、下記の対策を実施しましょう。

#### (1) 雜草管理

- ①ほ場内にヒエなどのイネ科雑草があると斑点米カメムシ類が集まるので、イネ科雑草の穂が出る頃（7月上旬）までに抜き取る。
- ②水稻出穂期の2～3週間前と出穂期頃の2回、畦畔の草刈りを行う。
- ③雑草管理が不十分な畦畔でイネの出穂期以降に除草すると、斑点米カメムシ類をほ場内に追い込み、被害が増大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、薬剤防除前日に行う。



ホソハリカメムシ



イネカムムシ

#### (2) 薬剤防除

- ①ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメが多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に薬剤を散布する。
- ②穂揃い期に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心とした出穂10～20日後の間）の防除が最も効果が高い。

#### (3) 粒剤を使用する場合の注意点

乳熟期頃（出穂7～10日後）に散布する。散布時期が早いと効果が劣るので注意する。エチプロール剤（キラップ粒剤）は散布時期が異なるため、ラベルを参照し散布すること。  
なお、粒剤を散布の際は、田面を露出させない程度の湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止を徹底する。

滋賀県病害虫防除所ホームページ <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

最新の発生予察情報やIPM、病害虫の見分け方などの関連情報を載せています。

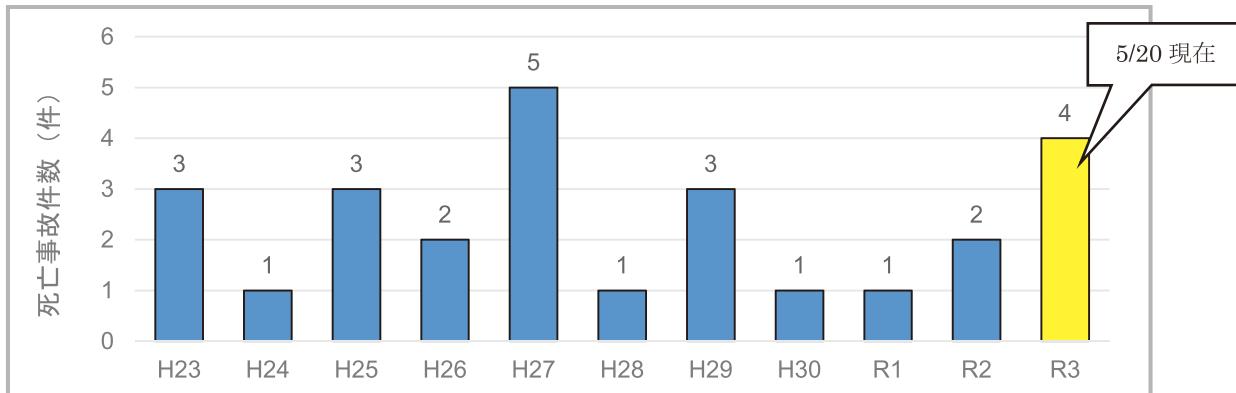
予察情報は6月8日、6月22日、7月6日、7月20日、8月3日、8月24日に発信します。

# 農作業中の事故に注意しましょう！

滋賀県農政水産部  
農業経営課

本県では、令和3年に入って農作業中の死亡事故が4件発生しており、過去10年間で2番目に発生件数が多くなっています（1/1～5/20現在）。畠畔の草刈りや大豆の播種、水稻の収穫等、農作業を行う機会が続きますので、農作業事故が発生しないよう農作業安全チェックリスト等に基づき、事故防止に努めましょう。

## 1 平成23年以降の農作業中の死亡事故件数の推移



## 2 令和2年に発生した農作業事故の例

あなたもヒヤリ！としたことはありませんか？

### 死亡事故 (2件)

- 管理機で畑を耕うん中に転倒、ロータリーに足を巻き込まれた
- フォークリフトで草刈機を運搬中、水路に転落した

### 草刈り (14件)

- 畠畔で作業中、排水路に転落し、肋骨骨折
- 操作を誤り、機械が反転して足を裂傷、足親指も骨折
- 巻き付いた草を取り除く際、左手指3本を深く切創
- 作業中に熱中症で救急搬送

### 積込み (7件)

- コンバインのオーガが糲コンテナに接触し軽トラ横転、補助者が胸椎骨折
- 糲の排出にフォークリフトを移動中、農道から田へ転落、顔面を14針縫合
- コンバインを積載車に積む際、荷台から転落し、頸椎を捻挫

### ほ場退出 (5件) その他

- トラクター等で田から上がる際、バランスを崩して横転、機械を損傷
- 田植機点検のため田に入った際、足を取られて手をつき、右手首を骨折
- 農舎で機械の整備中、足に部品が落下し、右足を骨折、裂傷

# 農作業安全チェックリスト

## ●農作業共通（死亡事故が多発しています！）

- 定期的に休憩をとり、無理のない作業計画をたてましょう。
- 動きやすい服装で、袖口や裾が締まった服装を身に付けましょう。
- 履物は、滑りにくい靴やスパイク付きのものを身に付けましょう。
- こまめに水分補給を行い、休憩中は日陰で休むなど、熱中症に注意しましょう。
- 機械に乗り降りする際はエンジンを止めましょう。
- 万一の事態に備え、携帯電話を身に付けましょう。
- 段差やほ場の端などに寄りすぎないようにしましょう。

## ●トラクター（転倒・転落事故が起きています！）

- 転倒に注意し、安全フレームは倒したままにせず立てておきましょう。
- シートベルトを着用しましょう。
- エンジンスタート時、周囲の人々に注意しましょう。
- 道路走行時は、左右のブレーキペダルを連結しましょう。
- 幅が狭い道や、ほ場進入路では、低速で慎重に走行しましょう。

## ●刈払機（刈刃、飛散物、転倒の事故が起きています！）

- 持ち運ぶときは刈刃カバーを装着しましょう。
- 事前に作業場所の確認を行い、石や空き缶を取り除きましょう。
- 刃に絡んだ草を取り除くときは、エンジンを止めて行いましょう。
- 周囲に人がいないことを確認しましょう（5m以内は危険）。
- 草が濡れている場所、傾斜地では滑りにくい靴を履きましょう。
- 往復刈りせず、刃の前方左 1/3 を使いましょう（キックバック回避）。

## ●耕運機（巻き込まれや挟まれの事故が起きています！）

- バック時は必ず後ろを確認し、ロータリーはクラッチを切りましょう。
- ロータリーと足の距離は常に余裕をもって作業しましょう。
- 発進時はエンジン回転を下げ、ゆっくりクラッチを入れましょう。
- 硬い地面での急加速（ダッシング）や跳ね返りに注意しましょう。

## ●コンバイン（巻き込まれや転倒の事故が起きています！）

- 詰まったワラを取り除くときはエンジンを止めましょう。
- 手こぎ作業では、手袋をはずして作業しましょう（巻き込み注意）。
- ほ場出入りは低速で直角に、大きな段差ではあゆみ板を使いましょう。

参加申し込み

8/20 金  
まで

令和3年度

# 近江米 食味コンクール

出品  
募集!

あなたの自信作を出品しましょう!

待つました近江米!

安全安心でおいしい近江米づくりに  
取り組む県内の農業者のみなさんへ  
「みずかがみ」および  
「環境こだわりコシヒカリ」の  
食味コンクールを実施します。  
下記の参加要領をご確認のうえ、  
ぜひご参加ください!



## スケジュール

参加申し込み

8/20 金  
まで

米の出品

9/30 木  
まで

## 募集要領

### 参加資格

- 参加生産者は県内在住の農業者または農業者団体(大型共同乾燥機製造施設の集荷米も含む)であること。
- 出品物は以下の全ての要件を満たす米であること。
  - ア 品種は「みずかがみ」または「コシヒカリ」で、滋賀県内で栽培されたもの
  - イ 環境こだわり栽培基準で生産されたもの
  - ウ 稲作種性が明確なもの
  - エ 滋賀県農作物病害虫雑草防除基準を遵守したるもの
- ・参画点数は、1生産者あたり「みずかがみ」または「環境こだわりコシヒカリ」それぞれ1点までとする(合計2点以内)。

### 参加申込方法

参加を希望する生産者は、参加申込書に必要事項を記入し、出荷契約先(JAまたは滋賀県主食集荷商業協同組合)へ提出してください。

### ほ場管理および生産履歴等の記帳

参加生産者は、栽培管理状況をサンプル袋の生産履歴書に記入してください。記載が不備なものについては審査から除外します。

## 米の出品

出品する米は、出荷される状態の「玄米500グラム」とします。なお、最終審査に選出された方には、食味官能審査用に別途「玄米2キログラム」を提出して頂きますから、その旨ご承知願うとともに、保管しておいてください。

## その他

外観品質・食味分析結果は出品者に報告します。出品された玄米についての返却はいたしません。(社会福祉団体等に提供させていただきます。)

## 審査方法

第1次審査 生産履歴審査として参加資格の要件を確認します。  
第2次審査 外観品質および食味成分の審査として機器による外観品質測定および食味分析で判定します。

最終審査 第2次審査で選出された各品種上位4点について、外観・香り・味・粘り・硬さを指標に、滋賀県農業技術振興センターにおいて食味官能審査を行い、総合評価により最優秀賞および優秀賞を決定します。

## 表彰

第2次審査で近江米振興協会長賞として「みずかがみ部門」「環境こだわりコシヒカリ部門」それぞれ4点以内を決定し、その中から最終審査により、次の賞を授けます。

【みずかがみ部門】 最優秀賞1点 優秀賞3点以内

【環境こだわりコシヒカリ部門】 最優秀賞1点 優秀賞3点以内

主催:近江米振興協会

(お問い合わせ:TEL.077-523-3920)

後援:滋賀県 滋賀県農業協同組合中央会

全国農業協同組合連合会滋賀県本部

滋賀県主食集荷商業協同組合